銀座の言語景観5

日本大学文理学部国文学科
日本語学基礎演習2

- はじめに
- 銀座のファストファッション店における国内ブランドと海外ブランドの差
- 視覚的図形と補助言語の関わり
- 銀座のコンビニエンスストアにおける言語サービスの違い
- デパート・百貨店間における対応言語比較
- 「和」を売り出す店における言語表記
- ホテル階級差にみられるトイレへの案内表示の差異
- 高級ホテルと中価格帯ホテルの言語景観
- 銀座の蕎麦屋における言語景観
- おわりに

検索

第6章 「和」を売り出す店における言語表記

6.2.主看板における店名表記法の意図（佐野元基）

調査の結果、どちらの店舗においても、ほぼ日本語のみで店名が書かれていた。しかし、興味深い言語表示をとっていたのが、『歴史ある由緒正しい「和」』の店舗、木村屋だ。銀座に建つ木村屋本店の主看板には、右横書きの筆文字で店名が記されている（図1）。

図1　木村屋正面

同時に、副看板にはより広く知られている「キムラヤのパン」表示もあった。外国語を連想させるカタカナと、現代的な字体・色使いで成り立っているこの看板は、正直に言って、「老舗」「和」のイメージを壊しているように感じる。

木村屋は「和」を武器にしているとは言いがたい。むしろ海外の裕福な旅行者層や近代化した日本に対して、グローバル的な側面をアピールしたいという意欲がうかがえる。

同じく『歴史ある由緒正しい「和」』店舗である鳩居堂においても、ローマ字表記の店名が発見された。ではなぜ、『人工的に作り出された「和」』でなく、『歴史ある由緒正しい「和」』の店舗において外国語が多く発見されたのだろうか。

それはおそらく、前者の「和」が演出であるからだ。演じるという行為はしばしば、現実よりも現実味を帯びることがある。『人工的に作り出された「和」』の店舗は、より現実味のある「和」を演じようとするあまり、外国を連想させるものを表に出せなくなってしまったのだろう。鳩居堂や木村屋は、本物であるからこそ、堂々としてそういったものを表示しているのだ。

6.1.調査概要

6.3.各店舗の英語対応について（濱田雄大）

ページTOPへ

Copyright © 2016 Department of Japanese Language and Literature. All right reserved.